

図5 さい帯巻絡

胎児の首にさい帯が巻き付いた状態を頸部さい帯巻絡といいます。カラードプラ法を用いると容易に診断できます。出生時におよそ25%の胎児に認められます。

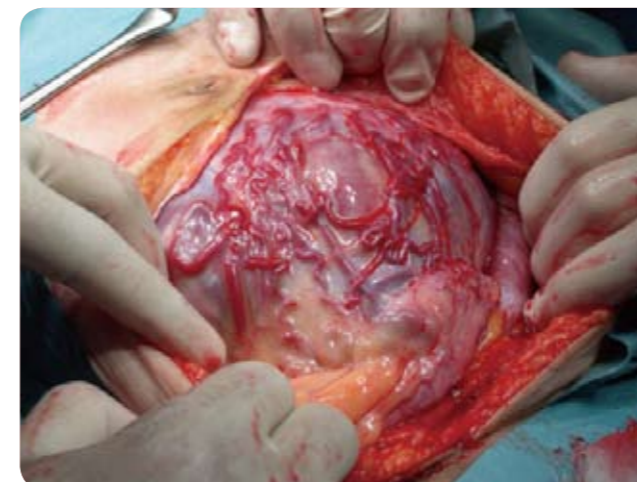


図6 穿通胎盤

帝王切開時に認められた穿通胎盤です。既往帝王切開創を中心として、子宮前壁全面に胎盤が透けて見えています。通常の前置胎盤に比べて異常出血の量が多いので注意が必要です。

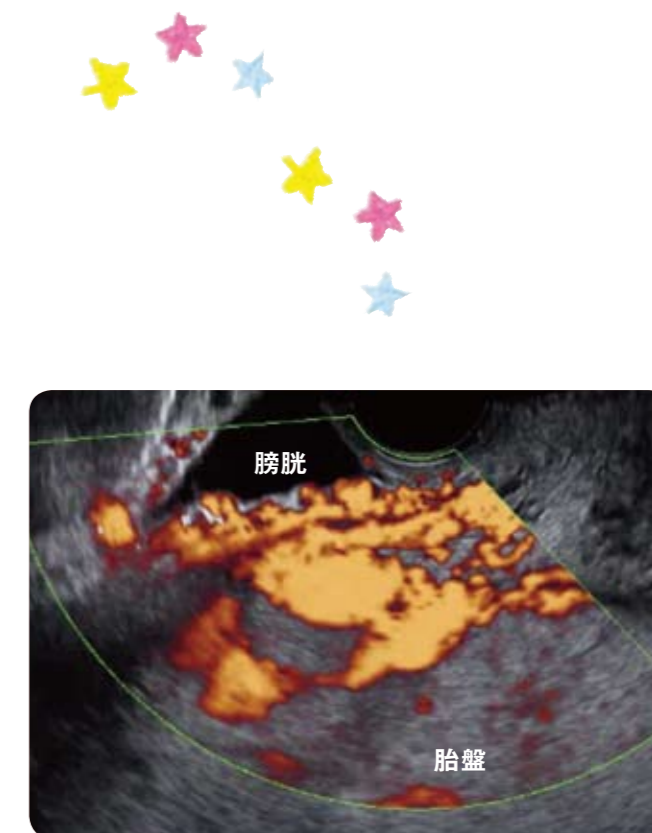


図7 穿通胎盤のパワードプラ所見

胎盤の血流は子宮壁を貫通し膀胱壁に及んでいます。



## どう話す?



超音波検査は「産婦人科医の聴診器」といわれることがあります。しかし聴診器は「聞く」のであって、超音波は「見る」のです。聴診器の音が医師にどう聞こえているか患者にはわかりません。しかし超音波検査は「百聞は一見にしかず」というように両親は医師が見ているものと同じものを見ています。ですから、ごまかしはききません。たとえば超音波の画面にさい帯巻絡が写っていたらどうでしょう（図5）。「先生、大丈夫でしょうか?」と問われて、それに対して何と答えますか?

内科や外科では現在の病状を聞かれることが多いでしょう。「先生、どうでしょうか?」

それに対して産科では往々にして将来のことを聞かれます。「先生、産まれるまで大丈夫でしょうか?」

どう答えるか。それは人それぞれでしょう。「先のことだからわかりません」「まあ大丈夫でしょう」「心配しても仕方ないですね」どう答えるかは、あなたの性格と、患者とあなたとの相性でしょうか。自分ならどう答えるか、考えておいた方がよいかもしれません。

## どう使う?



前置胎盤が見つかったとき、次にすることは癒着胎盤があるかどうかを見ることです。前置胎盤のなかには子宮筋層の中まで侵入しているもの（侵入胎盤）や、子宮を貫通して膀胱まで到達しているような場合もあります（穿通胎盤）。帝王切開の既往がある場合の前置胎盤は、癒着胎盤をきたしやすいので、とくに気をつける必要があります（図6）。

その場合、胎盤が子宮前方から内子宮口にかかっている（多くの前置胎盤は子宮後方からの前置胎盤です）。それとカラードプラ法で子宮筋層へ連続する血流が認められる。このふたつの所見にとくに注意しましょう（図7）。ドプラ法については次回に説明します。